

栃木県校友会 学術研修会並びに賀詞交歓会

平成28年度栃木県校友会学術研修会並びに賀詞交歓会が平成29年2月5日（日）、宇都宮市ホテルニューイタヤにて開催された。午後1時半、司会の田代高志専務理事（72回）の口切りで始まり半田 功副会長（78回）の開会の挨拶の後、恒例の校歌斉唱を行った。続いて、大川 新 県校友会会長（62回）より瑞宝双光章を受章された高塩治郎先生（55回）への祝辞と校友会員相互の融和についての挨拶があった。その後、近藤勝洪校友会本部会長の校友会の現状についての報告を含めた挨拶があった。

高塩先生受章の記念品贈呈に続いて、安西未央子県校友会副会長（68回）から学生時代に又賀 泉 先生（64回）に施術してもらった歯が未だ健在であるとの微笑ましいエピソードを含めた今回の講師、又賀生命歯学部口腔外科学講座教授の紹介があった。演題は「日常臨床の安心・安全のために 全身疾患とその対策」講演の内容は日頃我々が診療に苦慮している抗血栓療法を受けている患者や糖尿病の患者、腎透析を受けている患者、骨粗鬆症の患者への対応についての話が主であった。基礎から臨床まで細かに分かりやすく話していただいた。特に我々が混同しやすい止血のメカニズムを血管収縮、血小



握手する大川 新 会長と又賀 泉 教授

板、凝固因子、線維素溶解に分けて話してくださり、それぞれに対応する薬剤ごとに注意点を示された。そして、歯科医師は医師との連絡を密に取り対診を书面ですることが大切だと話されたことは、特に肝に銘じるべきだと思われた。

コーヒーブレイクを挟み、話は腎透析、BRONJへと進んだ。その中で顎骨壊死はビスフォスフォネートに限らず注射剤ゾメタやランマークでも起こり得てMRONJ 薬剤関連性顎骨壊死（Medication Related Osteonecrosis of the Jaw）という概念に変わって来ているとの話は、普段の臨床で分かっていることとはいえ問診や予診で確認せねばと再考させられた。さらに話は骨髓移植、口腔カンジダ症へと進み、腹いっぱい、いや脳いっぱいの多岐にわたる講演は幕を閉じた。活発な質疑がなされたのは講演が充実していた証であろう。佐川徹三県校友会副会長（68回）の挨拶で研修会は閉会となった。

講演終了後8階のオーロラにて賀詞交歓会が行われた。小生是非とも参加したかったのであるが、私用にて参加できず、まことに残念であった。きっと楽しい会であったに違いない。

（前橋 潮・75回記）



研修会風景